

⑨ 仏向ふれあいワゴン

メンバー

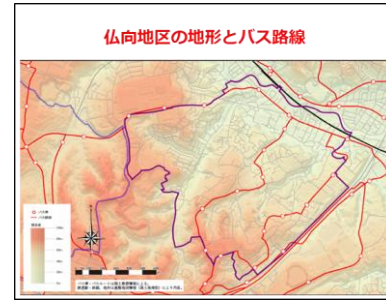
実施者 : 仏向地区社会福祉協議会
連携団体 : 横浜市仏向地域ケアプラザ、保土ヶ谷区役所、保土ヶ谷区社会福祉協議会

活動目的

仏向地区の高齢者をはじめとした買い物困難者への買い物機会の提供と、それに伴う住民同士の交流促進、ひきこもり防止を図る。また地域のイベント等に合わせて運行することで、余暇活動への参加から社会参加へとつなげていく。ボランティアが運行に携わる等、地域の様々な立場が関わることでゆるやかな見守りにつなげていく。

対象地域 : 横浜市保土ヶ谷区仏向地区

(人口)
約19,434人
高齢者数 4,535人
(高齢化率)
23.34%



取り組み内容

キーワード : 買物支援 / 移動支援 / 運転ボランティア / 添乗ボランティア / ミニFM局 / 見守り / 地域情報発信

1. 日常の買い物のための送迎実施。
2. 生活圏外のショッピングセンターへの買い物ツアー、イベント送迎。
3. 運転、添乗ボランティア（地域住民）による見守り。
4. ボランティア、利用者の茶話会実施。外出の機会創出および地域の中での顔の見える関係づくり。
5. 情報発信の仕組みづくり。サイト立ち上げやミニFM局開設等、多世代交流による情報発信。

2020年度の活動実績

- ・7月より月2回の運行開始。年間74便、延べ306名利用。うち生活圏外のショッピングセンターへは10便、延べ74名利用（24%）。買い物+αの外出機会を創出できた。
- ・登録者の40%が茶話会に参加。事業を通してつながりの輪を広げた。



取り組みが地域に与えた影響

- ・ NPOでもない地域住民が運営する、地域住民の為の移動支援は珍しく、保土ヶ谷区の福祉大会で発表する等の機会を通して、移動支援の大切さを実感し、積極的に取り組むようになった。
- ・ 自分の目で見て買い物し、重い物も買うことができるようになったことで、生活（特に食）に張りがでた。
- ・ 「仏向ふれあいワゴン」を利用することで「知り合いが増えた」という声が多かった。75歳以上になってから、知り合いを増やす機会が出来たことで、移動以外の効果を得ることができた。
- ・ コロナ禍で運行について真剣に検討、止めることなく感染対策をしっかりとした上で運行を続けたことで、「やればできる」という自信につながった。
- ・ ミニFM局を通して、普段地域活動に参加しない層の方たちが参加。新しい視点で積極的に関わるようになった。

取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

最初は自分たちでできる最小の取り組みから初めて、小さな改善を積み上げることで下地ができ、少しずつ事業が拡大できた。また、利用者の声をきちんとまわりに伝えることで、自分事として積極的に取り組んでもらえるようになった。

専門家コメント_福島大学

- ・ スモールスタートで下地をつくり、活動の幅を拡げてきた「プロセス」は、移動支援に関心のある地域にとって学ぶべき点は多いと考える。
- ・ 地域の課題と住民の求めに狙いを定めた「買い物送迎」がハマった好事例。小さく稼働して積み上げるスタンスながら、継続できる仕組みを整えた好事例と言える。車両を使った手法として、もっと知られて良い。